HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国果樹地域における新展開と参入農家の経営確立に関する研究 : 中国広西省ライチ国有農場を事例に [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	何, 梁棟
Citation	北海道大学. 博士(農学) 甲第15224号
Issue Date	2022-12-26
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/87765
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	He_Liangdong_review.pdf (審査の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学　位　論　文　審　査　の　要　旨

博士の専攻分野の名称：博　士（農学）　　氏名　　何　　梁　棟

審査担当者　主　査　教　授　東　山　　寛
副　査　教　授　板　橋　　衛
副　査　講　師　小　松　知　未

学　位　論　文　題　名

中国果樹地域における新展開と参入農家の経営確立に関する研究
―中国広西省ライチ国有農場を事例に―

本論文は序章・終章を含む６章からなり、図 27、表 39 を含む総頁数 99 の和文論文である。別に２編の参考論文が添えられている。

近年の中国の「農地市場」においては、政府は一般農村を対象に農地経営権の流動化を促進し、大規模経営の創出を支援している。このような政策転換を踏まえた実証研究が行われているが、異なる法制度下にある国有農場を対象とした研究は、ほとんど行われていない。一方、中国青果物市場では、電子商務取引による新たな販路が急成長している。果樹農業を対象とした先行研究では、市場環境変化に対する集団的対応が研究されているものの、品目特性により集団的対応が困難なライチなどの品目に関する研究は少ない。

そこで本論文では、辺境地域に立地する単作的な国有農場を対象に、参入経営におけるライチ部門基幹経営の確立を実証的に明らかにし、中国農業における「新型農業経営主体」としての評価を考察することを課題としている。

第一章「中国果樹農業の動向とライチ国有農場および職工農家の特徴」では、ライチ国有農場の作付面積が減少傾向にあること、国有農場に所属する職工農家の多くがライチ部門への所得依存度を低下させており、若年層の出稼ぎによる「脱農化」が進行していることを明らかにしている。

第二章「ライチ国有農場における重層的な「農地市場」の形成と取引条件」では、インフォーマルな収穫権・経営権取引の実態を分析している。職工農家の事例分析から、[A] 生産物販売農家は少数であり、段階的な「脱農化」により［B］収穫権売却農家、[C] 経営権売却農家が出現し、重層的な「ライチ農地市場」が形成されたことを示している。また、ここでの取引は「売り手市場化」しており、参入農家は、探索コストと収益変動リスクを負担し、不確実な高リターンを求めて取引に参加していることを明らかにしている。

第三章「ライチ青果物市場における新たな販路の出現と集荷条件」では、高品質ライチに特化した集荷会社を起点とした事例分析を行っている。ここでの販売方法が従来と異なる点は、①地域ブランド化を志向、②コールドチェーンへ対応、③個人消費者・高価格帯需要向けの包装、④ＳＮＳアプリを介した仲買人への高価販売という点であることを示している。その集荷条件は、①市場価格と連動しつつも相対的に高い買取価格、②小ロット・高頻度買取、③高品質品種への限定、④厳しい選果・納品基準の設定、⑤保冷施設での荷受け、⑥販売後決済であり、②③④⑤は産地内で最も厳しい条件であることを指摘してい

る。さらに、その条件に対応し、高品質ライチを継続的に供給している農家には、参入農家であるという共通点があることを明らかにしている。

第四章「参入農家の拡大プロセスと経営展開」では、参入農家の経営展開を分析している。事例分析から、参入農家はライチ部門収益の再投下により、中長期的視野で事業を拡大することで高品質･高産出を確保し､厳しい集荷要求へ対応していることを示している。また参入農家は､「農地市場」におけるリスクの高い取引条件に対し、ライチ部門を基幹としつつも、収入源の多様化により単年度の黒字を確保していることを明らかにしている。基幹とするライチ部門においては、①収穫権・経営権部門の同時展開、②グループ単位での複数・広域的な取引により、赤字幅の縮小効果を発揮し、複数年平均で高い収益を実現していることを実証している。

終章では、ライチ国有農場における参入経営の経営確立と「新型農業経営主体」としての評価を提示している。国有農場においては、職工農家が放出した農地・樹体の一部を、参入農家がインフォーマルな手段により集積していた。参入農家の中には、希少な高品質ライチの供給主体として、優れた栽培技能を有し、生産拡大を行う経営が存在していた。このような経営は、新たな販路を形成した集荷会社と連携することで高い収益形成力を保持し、ライチ部門を基幹とする農業経営を確立していた。このことから、参入農家を大規模化した「新型農業経営主体」の一形態であると位置づけ、市場環境変化へ適合しつつ高い農業生産力を発揮する担い手経営であると評価している。

以上、本論文は中国果樹地域における農地市場と青果物市場の新展開を踏まえて、国有農場を対象に、職工農家の「脱農化」によって出現した新たな主体である参入農家の経営確立を実証的に明らかにした初めての研究であり、農業経営研究に新たな知見を加えた成果であると評価される。

よって、審査員一同は、何梁棟が博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。